

初めまして本日はこのように素晴らしい機会に日本に呼んで頂きまして本当にありがとうございます。

私は現在タイ国チェンマイでロングステイをする方々に各種お手伝いをしておりますグリーンライフサポート株式会社を
経営しております市毛みどりと申します。

本日は現在のチェンマイの状況と問題点とオムコイのお話をさせて頂きます。

また皆様にご覧頂きます画像も素人のため家族の協力の元作成いたしました関係で、お見苦しい点や話す内容と
画像が合わない点もあるかと思われませんがご了承くださいませ。

私が暮らすチェンマイ県はタイ最北部に位置し 1,735,000 人の人口を持つタイ国内第 2 の都市です。

日本人は在留届を出していない人を含めると 3000 人から 5000 人はいるだろうといわれています。

このチェンマイは日本の京都と並び歴史ある寺院に囲まれた古都としても有名です。

700 年前にはランナー王国として栄え、ミャンマーとの戦いに負け 200 年もの間ミャンマーに統括された古く悲しき
そして素晴らしき歴史と伝統を持つ、タイ国内のどの都市よりも人が生活しやすい衣食住の環境が揃う、穏やかで
癒される街として日本からロングステイをする方々やゴルフをしに大勢いらっしゃいます。

とくに 15 年ほど前ロングステイ候補地として NHK や民法のテレビ番組で年金難民などと報道され急激に注目を浴
びました。

私がチェンマイに来たのは 30 年も前の話で、その頃のチェンマイはデパートやスーパーがなく市場という場所だけで
生活用品をそろえなければならない様な環境で、それはまさに日本の昭和 40 年から 50 年代といった感じの日本の
片田舎と同じでした。

当然日本食などは揃うはずもなくバンコクまでスーツケースを持ち、買出しに出かけ、都会のバンコクのスーパーで日
本食のあまりの多さに悲しくなり涙を流したことを覚えています。

電話が普及しておらず電話局に国際電話を掛けに行かなければ誰とも連絡が取れないような状態でした。

生きる為に整備された日本の生活環境全てがここには不足しており、日本のテクノロジーから 15 年以上遅れている
環境とは・・・私達が住むにはとても不便な場所でした。

毎日市場に通いおばさん達とやり取りするうちに言葉が通じなくても何とかなるんだという、面白さと頑張る元気をお
ばさん達にもらいました。

そのころは日本人がこのチェンマイに少なく日本人は珍しい外国人であったからで彼らもまたその外国人とどう接した
らよいかを模索していたことだったでしょう。

そして日本とはあまりにも対照的なことが命の尊さの違いでした。

携帯電話が普及していないので、交通事故で死傷者が出ていても通り過ぎろ、自分から警察に連絡するなと教
えられました、それは第一報告者が犯人にされる可能性が高いからで・・・道路でバイクが横転して首が反対側に折
れていても・・・それが明らかに死んでいると理解できても・・・そのために車を止めて助けに走る人がいませんでした。

救急車で病院に運ばれても家族と連絡が取れない或いは保険が無い場合にはそのまま家族が来るまで放置され
お金があり治療が続けられると判断されない限り助けてもらえないのだと、高額治療となる手術をしなければならない
場合には保証金を入れなければ手術さえも受けられないという延命するためではないというやり方に驚いてしまいま
した。

もし交通事故にあい車と接触したら、起き上がるな！ひき殺しに戻ってくるぞ・・・と教えられました。

なぜならば車の保険に加入していないので治療費を払えないから・・・

30 年前と比べ現在では車社会となり溢れんばかりの車の量のため、交通事故は増えるばかりです、強制保険では
医療費も賠償も間に合いません、いまでこそ携帯電話の普及やテレビで毎日の保険会社のコマーシャルにより任意
保険に加入する人が増えて来た事がほんの少しの救いです。

また、タイ語でマイペンライ、英語ではネバーマインド日本語で何とかなるさ大丈夫、この言葉に泣かされたものです。事故を起こしても全てをマイペンライで終わらせてしまうのです。

誤ることもなければありがたいということも無い、なんと便利で失礼な言葉だろうと泣いたものです。

これが全てのタイの風習に入り込み責任という大事な部分の表現であってもマイペンライ・・・車をこすられてもマイペンライ、擦ってもマイペンライ、約束を忘れても時間に遅れてもマイペンライ、まあ楽天的に考えれば簡単で便利は言葉ではありますが、日本人の考え方には少々理解に苦しむ言葉なのです。

しかしタイで生活する時間の経過とともにその言葉の意味の深さと広さを知り郷に入れば郷に従えてこの言葉に何度も助けられました。

近年世界から観光地として注目を浴びだし、海外からたくさんの観光客が押し寄せあつという間に高度成長をとげ工業団地に進出してきた日本企業、ロングステイヤーの訪れと共にスーパーに日本食が並び日本料理店が溢れる様になり、高層ビルが立ち並び新しいマンションが建設ラッシュとなり、あつという間にチェンマイは世界でも指折りの観光地としてトップに並び恐ろしい変貌を遂げていますしかし、

そのために起こる大気汚染や環境汚染で2月3月の山焼きの時期ともなると空気汚染はここでも世界でトップクラスとなり・・・呼吸器系に炎症を起こし病院は具合の悪い患者で溢れかえり季節病となづけられた病気が流行ります。年々酷くなるこの現象は深刻な問題となっています。

また最近の問題点はロングステイヤーの高齢化による問題です。

ロングステイが注目されたのは10年から15年ほど前その頃にチェンマイをロングステイ地と選んで実際に訪れた方々が現在では高齢となり70歳からうへは90歳を超えてしまいました。

そのために・・・起こる問題・・・は年金生活を維持することが出来なくなる

病気や事故で高額治療費を支払いビザ代として貯めていた80万Bを使用してしまう

女性に騙されて自分のお金を全て取られてしまう・

人により問題は異なりますが、多くの場合タイの保険に加入できない年齢であり日本の住所を抜いてしまい保険が無い状態でロングステイをしているということ、それにより起こる先は困窮です。

明日何かが起きれば病院に掛かるお金さえも日本に帰るお金さえもなくなってしまう人達・・・

そういう方々は現在たくさんの団体による情報交換で検討している終活にさえも参加することなく、静かに影を潜めて生活しています。いよいよ1人で生活できなくなり病気で病院に搬送されるなどして・・・初めて領事館に緊急コールが入り存在が表に出きます。

誰も自分がロングステイを始めるときに病気になるとは考えなかったでしょう。

誰も自分が何かの手違いでお金がなくなってしまうことが起こるとは考えてなかったでしょう。

誰も自分が寝たきりの状態になり介護が必要な状態になるとは想像もしていなかったでしょう。

誰も自分が遺体安置所に置かれたままになることになるとは考えも及ばないでしょう。

誰も自分が亡くなった後家族に迷惑を掛けることになるとは考えてもいないでしょう。

そのとき自分がどうすればいいのかをキチンと考えておかなければならないのです。

日本の家族と連絡を取れば・・・家族との交流を断ち見放されてしまっているため助けてもらえない

万が一命を落としてもそういう場合家族は私達外部の人間に委任状を出し死亡証明書を取得し遺体安置所から引取り火葬にするまでの手配の段階を依頼されます、しかしこの時点でチェンマイに訪れる家族が少ないことに驚かされてしまいます。

2016年から私共は毎月遺体安置所に遺体をご家族の代わりに引取りに行き火葬のお手伝いをしています

それは現在ではチェンマイからチェンライへそしてミャンマーとの国境のメーサイやメコン川のチェーンセンやチェーンコンにまで拡大しております。

出来るだけ困窮に陥る前に日本に帰国させる帰国の指導をしようと領事館と協力体制で立ち上がりましたジャパンケアネットの推進委員もしております。

この問題は奥が深いです

あまりにもタイという国に迷惑を掛けてしまうことは心苦しいです、迷惑を掛けないためのロングステイの準備を心がける指導が報道を通して必要になったのではないかと思います。

チェンマイがどこよりも素晴らしく優れているという環境ではありませんが、訪れた人が不思議と感じる安堵感、安らぎ感、癒され感、それは昔と変わらず今もチェンマイの魅力だと私は思います

今回のオムコイの教育支援プロジェクトでこの後お話を頂きますアンパイ校長先生との関わりをお話したいと思います。それは 2013 年から始まった命の水プロジェクトでオムコイのトゥンティン小学校と村に井戸を掘ったことがきっかけでした。この命の水プロジェクトの報告は外側の販売ブースの近くにありますが写真報告をお帰りの際に見ていただければと思います。

オムコイのトゥンティン学校は水がなく、村の貯水池は水がなくむき出しの土地はひびが入り

村の共同井戸は濁っており人が飲める水ではありませんでした、そのため色々な病気が流行り村人も子供達も不衛生で不健康この上ない生活状況でした。

2013 年にプロジェクトが立ち上がったのに井戸を掘る車は故障して山に登れず、修理しながらやっと現地入りできるまでに数ヶ月間も掛かりそのうえ更に数ヶ月もの間水源を見つけることができずどうなるものかと、プロジェクト代表者からの問い合わせで毎日ストレスで大変な思いをしましたが、そこにはないならある場所を探ししかありません学校近辺でだめならと 800m 離れた寺院のそばへ移動させてと発想の転換により井戸を掘り当て水が出たときの感動は言葉に表せないほどでした報告後はゆっくり眠れたのを覚えています。

トゥンティン小学校の命の水プロジェクトでチェンマイ県サンサイ郡の僧侶にお世話になりその僧侶の紹介でこのバーンクンメートウンノイ小学校を知ることとなりました。

バーンクンメートウン村まではオムコイの町まで戻り国道を走ること 1 時間半そこからは 30km は山道となり 4 輪駆動のトラックに乗り換えトラックの荷台に座り山々を乗り越えること 2 時間から 3 時間もかかり合計片道約 7 時間の移動です。流石にこれは厳しい道のりでした。

このタイで一番僻地にあるこの場所は雨季ともなれば泥でタイヤが滑りその道を上がれません。

簡単な気持ちで何とかいけるだろうとあなどっていた支援者にとり、山道に入り直ぐに泥沼化した恐ろしい道に出会い立ち往生する羽目になるとは誰も想像して降りませんでした。

、
そこまで移動してきたミニバスとトラックではどうすることも出来ず、途方にくれてしまいました

ところがここで 1 人行こうよ！と先人を切り、学校に行こうよとここまで来たんだから頑張ろうよ、何とかならないのかと諦めていた支援者にはっぱを掛けた人がいました、それは本日の主催者でもある三原健三氏です。

そのときは誰もが危険だから帰ろうと話していたので正直なところはみな口には出しませんでした危険なのではないだろうかの不安げな顔でただただ三原氏の顔をまじまじと見ているだけで、行きましようと言った人は誰もいませんでした。

しかし一番先にそれに手を上げたのが僧侶でした、ここまで来たのは縁があるから、最期まで見届けましようということで、そこに車を乗り捨てて迎えの車が来るまで待てば電気のないこのくらい山道を上がることはもっと危険な行為です、自然と自分の手荷物を持ち皆が歩き出しました。

、最初の訪問にも関わらずまして服装は山登りには無理がありながら 4 時間もの山道を歩いて現地に向かうことになりました。

歩きながら思うことはどんな泥道でも子供達の食料や生活必需品となる全てのものを運ばなければなりません、そのため車が故障すれば治るまでその場を離れることが出来ません、自然界の動物たちに襲われることもあるでしょう。何しろオムコイ群はタイの中でも一番貧乏な郡です、国からの援助支援が間にあわない現実があります、頭のとっペンから足の指先まで必要となる全てのものが不足していました。

しかし子供達に出会うとその道中の苦労も大変さも忘れてしまえるのです、学校に近づくにつれて子供達が元気な声で出向かえてくれます、大きな澄んだ瞳で照れながら到着した私達に最高の笑顔のもてなしをくれました。それは・・・ここに来てよかったと感動できた瞬間でした、正直涙が出るほど嬉しかったです。

こんな山奥なのに礼儀正しい子供達のとりこになりまして

何とかして助けたい・そういう気持ちが自然に沸いてくるから不思議です。

そして何回も何度も移動は大変でしたが・・・体が許される限りとのパークンメートウンノイ村と小学校へ通うことになりました。

平均年齢 63 歳以上の高齢者の方々が あ、私はまだ 50 台ですので平均年齢を調整してあげましたけれどもこの恐ろしい山道を何度も何度も校長先生を始めとする先生方や子供達を応援するために老体にむちをうって往復しました。

支援者で協力して作ったカレーライスを食べさせたり・・・クリームシチューにミートソースにおでんなど・・・毎回試行錯誤して子供達に食べさせたくて・・・作りました、それは野菜切から始まりその量や山での不便な環境で大変な作業でした、しかし果たして子供達が美味しかったか？は判りません。

味より量だったかもしれませんが取り合えず子供達がお皿に食べ物を残している様子はありませんでお代わりに来てくれてかなりほっとしたものでした。 おかげで参加者は食べ物には困らずに済んだと思います

財団 JT/ASH Japan 理事の三原健三氏を始め栃木県のフレンド株式会社の山口会長、Marine Travel の山口社長ご家族、内田洋行株式会社、ピジョン株式会社、ベストアジアフレンド支社長望月氏や台湾人支援の方々をはじめとし、チェンマイからはグリーンライフサポート株式会社、長野県人形アーティストのご夫妻、チェンマイイ狂ゴルフクラブのメンバーの方々を始めとしたたくさんの方々からの支援と応援をいただき、山の子供達への夢作りプロジェクトとして 2016 年の春図書館、保健室を設立寄贈にまで漕ぎ着けました。

コンクリを運んで図書館を作るには費用が掛かり過ぎ、それならばと森林局にお願いして樹をわけて頂きました、また雨期明けの時期を選び土が軟らかい間に柱を打ち込まなければならなかったので・子供達の父兄が協力して土地をならし樹を運び柱をうっ作業をしてくれました。この労働力は皆父兄が進んであいた時間を利用して完成させてくれた地域ぐるみであったからこそのものでした。

完成式でパークンメートウンノイ小学校を訪れたときの支援者の皆さんの感無量の思いと実現したことへの安堵感の良い顔を本当に今でも忘れることは出来ません。

往復の長時間の苦労もこのときばかりは忘れてしまえるから不思議なものです

続けて支援する為にどうしたらいいか？がこれからの問題でした。

そこには生きる為に必要な希望を見つけてあげなければならないという問題がたくさん残されています。

小学校までは校長先生の努力の成果で皆終了することは可能ですが、そこから先の人生がありません。

それをこれからどうすることが彼らにとって助けとなり生きる希望を与えられるかの重要な問題として今だ残されているからです。

高等教育を受けることは日本では当たり前になっています、しかしオムコイの子供達はその高等教育を受ける年齢は家族の中で一番の働く力であるわけなのです、なので農耕作の一番忙しい時期には学校よりも家の手伝いをさせたいと考えている親はその時期になると子ども学校にこさせないで休ませてしまうのです。

教育を受けることで手に職をつけさらには家族の面倒も見てくれるだけの将来があるということに家族が気がつかなければなりません、人らしく生きるために産まれてくるべきはずなのに・産まれて来ても生きていく術を知らず、命の尊さを教える人がいないという悲しい世界です。

オムコイ郡に住んでいる山岳民族は貧困であり住民の多くは教育を受けておらず、子供たちに教育を受けさせる意識が薄く、生きる為の生活職業が定まらない、様々な文化と宗教をもち深刻な薬物リスクを抱えている地域でまだケシ栽培や吸引精製も行われている、国の薬物撲滅対策はまだこの地域には目が届かない危険地域です。

さらには親に教養がないため出生届けを出さず生きている証さえも持たない無国籍の子供達が大勢います
そのためにまず校長がしたことは教師と共に家庭訪問を繰り返し親を説得して歩いたのです。
これもタイ語が標準語ではないカレン族の山の中で言葉に苦勞して大変なことだっただろうと思います

そんな最悪とも言えるこの危険地帯で、アンパイン校長の前の校長はその環境に耐えられず精神を病み半年でこの学校を見捨てて行きました、その問題多きこの場所に彼女は教育生活の10年もの時間をバーンクンメートウンノイ小学校に掛け給料を注ぎ込んでまでを自分の教育理論を通し、せめて優秀な生徒には教育を受けるチャンスを、そのためにタイ国内中を走り回り事情をうったえ続けています。
国にそしてオムコイという貧乏な郡で認めてもらう為には子供達のしつけと生きる希望と頑張ることの意義を教えない限りそれさえも叶わないのです、アンパイ校長の願いである里親制度、奨学金制度の設立の願いと継続の道のために日々奮闘していらっしゃいます。その生き方に私達は感動し彼女が守ろうとするこの学校の子供達に少しでも役に立てたら・その願いが今日という形になりました。

教育それは中学高校大学に通うことだけではありません、この貧しいオムコイでも勉強すれば自分の両親から村から学校からたくさんの人々とも守ることが救うことができるということへの導きとやる気を引き起こすことから始めなければなりません。

山の子供達の教育は町の子供達の教育方法レベルとは異なります、それは平等とは言えない残念な環境にあります、教師も自分の教科だけを教えればよいというものではないため、外国語などは必要とされないものとして誰も教えることが出来ないという事実もあり、全国统一試験のレベルに合わせることは本当に大変な苦勞と努力なのです。

両親が麻薬中毒となる逮捕される、麻薬の売買なので行方不明になる、殺されるなどの環境に置かれている子供達は自らもその辛さから逃れる為に麻薬に手を出してしまいます、そこから抜け出す為の勇気を教えるためには、たくさんの人々からの暖かい支援と援助が必要です、しかも彼らの人生を考えればそれが短時間で適うはずはないのです、長時間を掛け彼らを見守らなければならないということが、子供達への教育資金支援が生きた使い道であることを皆様にご理解頂けたらと願っております。

世界中の子供達は世界の宝です、大人たちの勝手な戦争や貧困のためにその宝を失ってしまうことは避けなければなりません。これからを背負い世界を守る子供達を育てない限り、私達にも世界にも未来がありません。
このオムコイの子供達も世界からみたらほんの一握りのものでしょう、それでも今動きださなければ何も生まれません、始まりません。

また最期になりますが、2018年2月この命の水プロジェクトに共感し図書館の下に職業訓練センターを蓮田ロータリークラブ、宮崎南ロータリークラブの皆様により寄贈されました
これにより子供達はカレン族の伝統を正確に伝承する為に役に立ててくれることと思われまます。

今後も私どもはアンパイ校長が頑張っている間の皆様からの暖かい支援を色々な形であらたに結んで続けていくお手伝いが出来ればと思います

また本日会場で流れておりました音楽は、オムコイの山の教師達へと題した歌を私が日本語に編曲しバンコクでDJをしていてこの歌の作者でもあるドンさんに日本語で歌をうたって頂くことができました。

タイ語で作られた歌を日本語にすることは字数が合わず大変難しくさらにそれを日本語を知らないで歌うドンさんの苦労を考えると本当に大変だったと思います。3ヶ月間の日本語の指導と歌いやすいように何度も言葉を変えながら今日の日に間に合いましたことをこの場をお借りいたしましてバンコクでご協力頂きました皆様にお礼申し上げます。

余談になりますが

2013年から始まったプロジェクトで私は2014年に乳癌の手術を致しました

抗がん剤の治療中でもオムコイに行かなければなりませんでした。

丁度誕生日の1日後だったのでアンパイ校長が子供たちとハッピーバースデーを歌ってゼリーのケーキを作って祝ってくれました、それは抗がん剤治療の一番苦しい時期に私に頑張る元気をくれました、その暖かい応援でどんなに助けられたでしょう。

それは今でも？脳裏に刻み込まれた何よりの幸せでした、ホンのちょっとした優しさがこれほどありがたいと実感したことはありません。皆様の暖かい支援は必ず生きた形になり、子供たちに伝わり、彼らは忘れることはありません。

小さな優しさから始めませんか？

本日起こし下さいました皆様には平日のお忙しい中をお越し頂き長い間ご静聴頂きありがとうございました。

そして今回このようなチャンスを作って頂きました主催者関係者の皆様にお礼を申し上げますと共に皆様のご苦労に感謝致します。ありがとうございました。